全国視聴覚教育連盟

視聴覚教育時報

No.736　2023 年　２月号

contents

▽２月 28 日開催 視聴覚センター・ライブラリー担当者研修会参加者募集
▽令和４年度 視聴覚・放送教育合同全国大会　生涯学習部会報告①セミナー
▽令和４年度 視聴覚・放送教育合同全国大会　生涯学習部会報告②実践発表
▽えすけーぷ

▽２月 28 日開催 視聴覚センター・ライブラリー担当者研修会参加者募集

当連盟では来る２月 28 日（火）、「視聴覚センター・ライブラリー担当者研修会」を実施します。視聴覚センター・ライブラリーの担当者にとっても、ＧＩＧＡスクールについて研修することは、重要なことと考え、オンラインによる研修会を通して、ＧＩＧＡスクールの取組について学ぶ貴重な機会としました。

講師には、デジタル教科書学会の前会長で、学校現場のＧＩＧＡスクール構想の牽引役でもある、富山大学の長谷川春生准教授を迎え、１時間にわたりご講演いただきます。講演後は情報交換・質疑応答も予定しています。

・日時：２月２８日（火）
　　１５：００～１６：３０
・講師：富山大学　長谷川春生　准教授
・テーマ：「ＧＩＧＡスクールの取り組みと視聴覚ライブラリー・センター」
・開催方法：オンライン（Zoom）
・日程：1)15:00～15:05
　　開会の挨拶と講師紹介
　　2)15:05～16:05
　　ご講演
　　3)16:05～16:25
　　情報交換（質疑応答も含む）
　　4)16:25～16:30　閉会
・申込：下記項目をご記入の上、メールでお申込みください（受付後、Zoom アドレスを送付します）。
所属（　　）
氏名（　　）
※メール宛先　info@zenshi.jp
・問い合わせ：
全国視聴覚教育連盟
TEL：03-3431-2186
http://www.zenshi.jp/

▽令和４年度 視聴覚・放送教育合同全国大会　生涯学習部会報告①セミナー

セミナー

テーマ「視聴覚センター・ライブラリーとしてデジタルアーカイブにどう取り組むか」

講師：坂井知志（日本デジタルアーキビスト資格認定機構理事）

司会：丸山裕輔（全視連副専門委員長・新潟県五泉市立村松小学校）

１．会の流れ

自作教材の制作とデジタル配信に関して、デジタルアーカイブという視点から講義と質疑応答を行った。また、近年、視聴覚センター・ライブラリーの保有する教材に関して廃棄や移管に関する問い合わせが増えているため、手続き方法を含めた解説の時間を設けた。

２．講演

テーマ「視聴覚センター・ライブラリーとしてデジタルアーカイブにどう取り組むか」

講　師：坂井　知志（日本デジタルアーキビスト資格認定機構理事）

日本デジタルアーキビスト資格認定機構は、当時の通産省がデジタルアーカイブ推進協議会というものを立ち上げたことから始まり、人材養成という課題に対応するためにカリキュラム開発を行って現在に至っている。

デジタルアーカイブは和製英語だが、欧米ではアーカイブという言葉は通じる。日本では公文書というと役所の

文書ということになり、映像については消極的だが、欧米では映像資料を長期保存することが当たり前になっている。

そこに日本の視聴覚教育の役割の一つがあるのではないか。国ができなければ各県各市町村の映像が連携して繋がって提供することが期待される。

映像データのデジタル化が進む現在が、将来ブラックボックスになる危険性をはらんでいる。目に見えない、圧縮技術の変化など長期保存に関してデータを扱う人に課題となる。

国の機関ではデジタルデータの長期保存のためにマイグレーション（定期的にデータを移行）によって長期保存を可能にすることを始めているが、都道府県や市町村のデータまではしてくれない。

つまり、デジタル化したら安心ではなく、データの移行やソフトやハードの変化に対応し続けなければならない。また、データの共有方法に関しても変化に対応する必要がある。

また、著作権をはじめ肖像権、個人情報、さらに監修という問題も非常に重要であるとともに、アクセシビリティ、誰もがアクセスしやすくするということも含めて権利者に了解を取っていく方法が普及していく必要がある。

デジタルアーカイブが何を目指すかというと、知識基盤社会の基本データになっていくことにあり、視聴覚教育では以前から目指し

ていたことの一つである。石川県が発行する「視聴覚いしかわ」（平成 25 年３月１日）での金沢星稜大学岡部教授の講演の抜粋が参考になる。
https://www.pref.ishikawa.lg.jp/shakyo-c/isk/kaiho/documents/av-isk09.pdf

総務省のガイドライン「震災関連デジタルアーカイブ 構築・運用のためのガイドライン」では、10 年単位でのマイグレーションを行うことが必要だとされている。
https://www.soumu.go.jp/main_content/000225069.pdf

このマイグレーションを継続的に行うことに視聴覚センター・ライブラリーの役割があるかと思う。また、デジタルデータの中で一番大切なのはメタデータ（写真の場合は撮影日時やカメラ情報、設定、位置情報などの exif 情報）と権利処理になる。メタデータのないデータはデータの屑になる可能性もある。データを共有する場合にはこのメタデータが必須となる。写真の場合には exif の他に IPTC という著作権情報を入れられるメタ情報がある。

さらに著作権などの権利処理ができていないデータもやはり使えないデータになり、使っていた場合には閉鎖せざるを得ない可能性がある。

著作権等の権利処理の方法の普及というところで、文化庁の契約書作成支援システムと著作権テキストを見ておいてほしい。
文化庁契約書作成支援システム
https://pf.bunka.go.jp/chosaku/chosakuken/c-template/
著作権テキスト
https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/seidokaisetsu/pdf/93736501_01.pdf

視聴覚センター・ライブラリーに求められるデジタルアーカイブへの取り組みとして、まずは市販教材と自作教材における取組の違いが挙げられる。現状は市販教材はマスで、自作教材はパーソナルといえる。しかし、自作も市販と同様な方法を指向するものも出てきている。

次に自作教材制作とアーカイブへの期待として、パーソナルなデジタルアーカイブへの取り組みが視聴覚センター・ライブラリーに対してまず挙げられる。

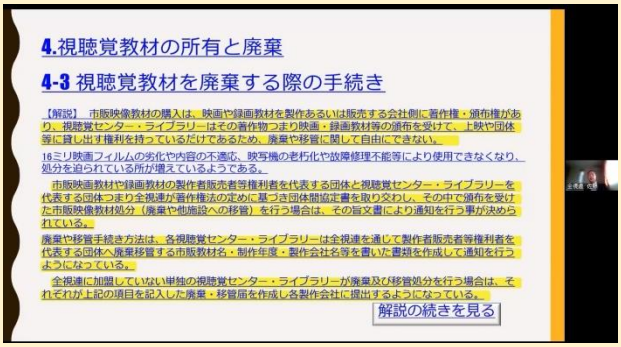
自作教材を作るという学び自体が優れた学びの経験となり、学びのポートフォリオづくりにつながっていく。

学校や地域のデジタルアーカイブ、自らのデジタルアーカイブ作成の学びの場としての視聴覚教育の可能性に期待したい。

３．視聴覚教材の廃棄と移管手続きの考え方と手続き方法

説明：全国視聴覚教育連盟事務局長
佐藤　正

平成 23 年度より、視聴覚ライブラリー所有の視聴覚教材を廃棄や移管する場合に権利者団体に通知することとなり、今年度で 12 年目を迎えた。16 ミリフィルム・ビデオテープ・ディスクなどを、施設の統合や廃止に伴い他教育施設に移管する場合や廃棄する場合、その視聴覚教材の作品名などを「視聴覚教材の移管届け・廃棄届け」のリストを記入し、加盟団体を通じ全国視聴覚教育連盟に提出し、全視連は（公社）映像文化製作者連盟（以下映文連）に通知し、著作物の移管が完了する。その手続きの流れや方法を解説した。



この前段階として、映画の著作物の複製物の貸与にかかる保証金の取り扱いについて昭和 61 年に映像の製作者団体である映文連と全視連で覚書を結んだ。途中協議を続けながら、平成の市町村合併による変化を受けて、平成 23 年度から廃棄届を行うこととなった。映文連と全視連は毎年相互の名簿を交換し、届け出を行っている。

2020 年 4 月に全視連のホームページにアップした「視聴覚ライブラリー職員のための Q&A」の中に、視聴覚センター・ライブラリーが貸し出しを行うための保証金の仕組みや廃棄する場合の方法などが解説されている。令和３年度の廃棄・移管届け出状況を見ると、廃棄届けは、16 ミリが 4,027 本、ビデオが 6,241 本、ＤＶＤ／ＬＤが 37 本となっていて、移管届けは、16 ミリが 522 本、ビデオが 1 本、ＤＶＤが 1,097 本と、廃棄届が多くなっている。

４．質疑

Q：学びのポートフォリオに関して、大人のポートフォリオに関して考えを知りたい。

A: 以前、国立科学博物館で、博物館で学んだことをｅポートフォリオに書き込んでいくということを中心に研究開発を行ったことがある。視聴覚センター・ライブラリーでの学びをポートフォリオに書き込んでいくということを開発していくということが必要なのではないか。

パーソナルが大切ということにつながってくるが、今後の取り組みに期待したい。

▽令和４年度 視聴覚・放送教育合同全国大会　生涯学習部会報告②実践発表

実践発表

テーマ「自作教材制作と教材のデジタル化の取組み」

発表者：近藤雄一（愛知県岡崎市視聴覚ライブラリー）
山本俊之（富山県民生涯学習カレッジ）

講師・司会：丸山　裕輔（全視連盟副専門委員長・新潟県五泉市立村松小学校）

１．「岡崎市視聴覚ライブラリーにおける自作視聴覚教材制作の取組み　教材を発信し続ける視聴覚ライブラリー」

発表者：近藤　雄一

岡崎市視聴覚ライブラリーは、昭和 29 年 5 月「岡崎市小中学校視聴覚教育協会」としてスタートし、教材フィルムを本市小中学校に貸し出し学校教育に貢献してきた。昭和 48 年 6 月に条例が可決され、学校教育と社会教育が一体になった公立視聴覚ライブラリーが発足した。現在は、視聴覚機器・教材の貸出業務をはじめ、映画会開催、教材制作協力、小中学生向けビデオ制作教室、教材コンクール主催等を行い、より主体的な教育となる制作のサポートを行う「能動的なサービス」を目指している。

教材研究の一環として映像教材制作が行われるようになり、昭和 49 年度からは、小中学校視聴覚主任がライブラリー運営協力員として、班を構成し年度ごとに映像教材を制作する自作教材制作委員会となった。

現在では、ライブラリーがサポートする「おかざき映像教材研究会」が自主サークル活動として、小中学校教師の有志が集まり映像教材制作に携わっている。

年度当初、小中学校にメンバーを募り班構成する。班長を中心にコンテ検討、撮影・編集作業を行い 1 年間で教材の完成を目指す。ライブラリーは、コンテ検討会議や編集作業、撮影・編集機器の貸出等のサポートをする。そして「おかざき映像教材研究会」は、仮編集検討会、本編集検討会を開き、意見交換を行い完成度を高める。

年度末に完成した教材は、次年度には小中学校にＤＶＤとして配付され、授業で活用されている。また、社会教育のためライブラリーの貸出教材として登録する。令和４年３月現在、学校教育・社会教育自作視聴覚教材（デジタルコンテンツを含む）は、320 本を数える。また、全国自作視聴覚教材コンクールにおいても、最優秀賞を通算で 24 回受賞するなど高い評価を受けている。

質の高い教材制作の要因として、３点あげられる。１点目は、教師が教材制作に携わっていること。現場の教師が、目の前の児童生徒のためにという思いをもって制作活動に取り組んでいる。また、先輩後輩を考えた班構成を行い、ノウハウが伝承されている。２点目は、仮編・本編検討会が行われることである。先輩や他班の指摘は、厳しいが大変参考になる。３点目は、ライブラリーのサポートがある。教材制作に欠かせない撮影・編集機器と作業スペースを提供できている。

今後に向けて、教材を発信し続ける「能動

的なサービス」を目指すライブラリーとしては、制作を担う後進の育成と、日進月歩する撮影編集機材の更新を進めていく必要がある。

２．質疑応答

Ｑ１：古くなった機材の取り扱いは？

Ａ１：５年くらいのリースで契約し、期間が切れた後はライブラリーのものにするとしているので、使えるまで使うという運用をしている。

Ｑ２：編集用のパソコン利用促進方法は？

Ａ２：編集用の高いスペックのパソコンはライブラリーに備えている。小中学校のビデオ教室は動きは厳しいがノートパソコンでという使い分けをしている。

３．「郷土学習教材の作成、映像のシリーズ化とデジタル配信　富山県映像センターにおける取組み」

発表者：山本　俊之

富山県映像センターは、本部と４地区センターからなる生涯学習機関である「富山県民生涯学習カレッジ」内に平成 11 年に設立された。映像を活用した生涯学習活動を支援する「映像でまなぶ」「映像をいかす」「映像を

つくる」「映像をあつめる」という 4 つの役割を持っており、映像の利用相談や貸出に応じる「貸出カウンター」の他、映像を通して郷土の文化などを学ぶ「ハイビジョン学習室」、映像・音声を収録する「スタジオ」、映像を編集する「映像工房」などを備えている。

郷土学習教材の作成に関して、昭和 52 年度より毎年、富山の自然や文化に関する学習に活用できる映像教材を制作してきた。

その媒体は、8mm フィルム、16mm フィルム、ＶＨＳ、ＶｉｄｅｏＣＤなど、制作時の技術・方式にあわせ変化してきたが、平成 17 年度からは、制作した郷土学習教材をＤＶＤ化し、県内の学校や教育関係施設など約 500 ヵ所に配布している。

近年の郷土学習教材の作品としては、「水の王国とやま『命をつなぐ水』を未来へ」(R3)、「新時代を拓く～藤井能三の近代遠望～」(R2)などがある。「おうちでシリーズ」の制作と配信は、郷土学習教材以外にも県内各地を取材してきた映像を、令和２年度から「おうちで花めぐり」、「おうちでお祭り」などテーマごとに再構成し、コロナ禍で来所がままならない方々でも、自宅にいながら視聴できることをねらって実施している。

平成２年に開通した「富山県生涯学習情報提供ネットワークシステム」（愛称：とやま学遊ネット）には、富山県映像センターの利用方法やイベントを紹介するＨＰとは別に、所蔵する映像教材・資料をインターネットで検索し視聴することができる「とやまデジタル映像ライブラリー」がある。「郷土学習教材」や「おうちでシリーズ」も、そこで視聴することができる。

郷土学習教材の活用策としては、カウンターでの貸し出しや上映会の開催も行っている。

「とやまデジタル映像ライブラリー」における郷土学習教材の再生回数上位３作品は、

H23 の越中を拓くー椎名道三と十二貫野用水ーが 5,208 回、H28 のとやま「鉄道」物語～とやまの近代化と鉄道の発展～が 1,789 回、H17 の布橋大灌頂～立山信仰と女人救済儀式～が 1,362 回となっているが、。「とやま学遊ネット」のアクセス数が年間 80 万件前後あることを考慮すると、視聴者を増やす余地はまだまだあると考えられる。

今後に向けて、いつでもどこでも何度でも手軽に視聴できる手段として、ますますインターネットによる利用が期待される。しかし、ただ配信するだけでは足りない。「とやま学遊ネット」トップページからの誘導、他の機関のサイトとの連携など、様々な工夫が求められる。

４．質疑応答

Ｑ１：取り組みの原動力はどんなところに？

Ａ１：職員は学校現場から来ており、学校教育に役立つ取り組みをしたいという思いがある。

Ｑ２：スマホを活用した映像制作の取り組みは？

Ａ２：スマホによる映像制作講座を開催した。

５．指導・講評

実践発表の２施設とも良い自作教材を制作し、活用できている。制作から活用までの良い循環ができているということが素晴らしい。

そのための施設側のサポート体制が出来上がっていることも重要で、その伝統を継承する工夫もなされていることが注目すべき点といえる。映像制作から発信に向けたデジタル化アーカイブ化により蓄積し、配信につなげることで学校でも地域でも活用されていくことにつながる。

▽えすけーぷ

香港の映画監督、脚本家であるウォン・カーウァイ（王家衛）が再び脚光を浴びているようです。1988 年の『いますぐ抱きしめたい』で監督デビューし、1990 年代の『欲望の翼』、『恋する惑星』、『天使の涙』、『ブエノスアイレス』といった作品で世界的な名声を博し、日本の映画館でも多くの観客を集めていました。

私もリアルタイムで映画館に通ってウォン・カーウァイ作品を見てきましたが、2000 年代前半の『花様年華』、『2046』など 6 本と 2013 年の『グランドマスター』で監督業を終え、製作に軸足を移したため、私もウォン・カーウァイの映画から遠ざかっていました。

しかし、2000 年の第 53 回カンヌ国際映画祭において主演男優賞を獲得し、ウォン・カーウァイ監督の代表作となった『花様年華』が制作されて 20 年たつことを記念して、監督自らの手により過去作を 4K でレストアするプロジェクトが実施され、5 本の作品が再び映画館で上映されました。アスペクト比や音声にこだわりがあったようです。上映館には多くの観客が詰めかけたそうですが、私のような往年のファン以上に若い観客、特に女性が多いそうです。リアルタイムの上映でも女性ファンがスタイリッシュな映像と世界観に魅了されて見に来ていましたが、20 年以上の時を経ても色あせない魅力を持っています。

私はなかなかタイミングが合わず映画館に行けずにいたため、4K 画像ではありませんが動画配信サイトで久々にウォン・カーウァイの映画を見て、その世界に入り込んでいました。30 年経った作品が色褪せないのは作品としての力があるからに他なりませんが、ウォン・カーウァイに限らず、他の多くの作品においても、作られた時代の社会のありようや雰囲気をまとっており、時が経っても見る者に訴える力を持っているのではないでしょうか。

以前触れた、映画初期の女性監督アリス・ギイの短編映画を 6 本、川崎市アートセンターで先日見てきました。サイレント映画にピアノ、フルート、バイオリンの生演奏を合わせての上映でしたが、新鮮な喜びをもって観ることができました。視聴覚センター・ライブラリーに埋もれている 16 ミリ映画にもこのような上映の機会が持てれば、教育資産、文化資産としての価値を再発見できるのではないでしょうか。（T．M）

全国視聴覚教育連盟
〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-10-11　虎ノ門 PF ビル
TEL：03-3431-2186／Fax：03-3431-2192
H P：http://www.zenshi.jp/
Mail：info@zenshi.jp

東映 教育ソフト Line-up!

社会・道徳・特別活動

自分ごとSDGs

SDGsに取り組んでいる人たちのインタビューを見て、身の回りにある身近なものからSDGsについての考えを深めていきます。SDGsの基礎知識を学ぶだけではなく、SDGsを自分ごととして捉え、行動していくきっかけとなる教材です。

「指導案」「ワークシート」あり

(22分) 72,600円(税込)
学校特別価格 36,300円(税込)

道徳・特別活動

性の多様性とLGBTQ+
～誰もが自分らしく生きるために～

「性のあり方」についての基礎知識をわかりやすく解説しながら、典型的でないとされる性のあり方の人たちへのインタビューを通して、性には様々な形があることや、性的マイノリティを取り巻く実状についても伝えます。

字幕版付き　解説書あり

監修：一般社団法人fair

(28分) 72,600円(税込)
学校特別価格 36,300円(税込)

家庭・保育

「映像で学ぶ　幼児の発達と生活シリーズ」全3巻

第1巻　幼児の心身の発達(24分)
乳幼児の発達がどのような過程で進んでいくのか、体の発達と心の発達、2つの視点で解説します。

第2巻　幼児の生活の特徴と家族の役割(23分)
乳幼児期の子供の生活の特徴と家族の役割について解説します。

第3巻　幼児と遊び(20分)
乳幼児期の子供の姿を見ながら、「遊び」の特徴や意味について解説します。

各巻　72,600円(税込)　3巻セット　198,000円(税込)
学校特別価格　36,300円(税込)　学校特別価格　99,000円(税込)

道徳・特別活動・防犯

「スマホは情報モラルが大切」全2巻

第1巻　ネットいじめをしない!SNSでの出会いに気をつけよう!(25分)

第2巻　もう一度よく考えよう!写真や動画の投稿(18分)

1巻で「ネットいじめ」「SNSでの出会い」、2巻で「個人情報流出」「炎上」をテーマとして取り上げ、それぞれドラマ編と解説編で構成しています。スマホを使ってSNSを利用するには、情報モラルを身につけ、よく考えた上でメッセージや写真や動画を投稿することが何よりも大切であることを伝えます。

各巻　72,600円(税込)　2巻セット　132,000円(税込)
学校特別価格　36,300円(税込)　学校特別価格　66,000円(税込)

お問い合わせ・チラシ請求は
☎ 03(3535)3631　FAX03(3535)3632

予告編配信中　https://www.toei.co.jp/edu/　教育映像　検索

東映株式会社　教育映像部
〒104-8108 東京都中央区銀座3−2−17

●学校向け特別価格もございますので、お気軽にお問い合わせください。

http://www.toei.co.jp/edu/